

(別添2)

No.	1
策定年月	令和3年4月
見直し年月	

## 麦・大豆産地生産性向上計画 大野市産地 (作成主体:大野市農業再生協議会)

### 1. 麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

大野市は、全耕地面積に対して主食用米の作付割合が約6割を占める水田地域である。

近年、主食用米の国内需要が減少する中で、将来を見据え、加工用米等の生産拡大や園芸品目の導入等と併せて、麦・大豆の生産を拡大する必要がある。

麦・大豆の生産拡大にあたっては、担い手への集積が急速に進む状況を踏まえ、効率的作業が可能であり生産性の高い麦・大豆の産地づくりを推進していく。

また、実需と密接に連携し需要のある品種の生産を推進するとともに、実需者の求める品質と安定収量を確保するための栽培技術の導入を進めていく。

現在、大野市においては、水田収益力強化ビジョンに基づき取り組んでいるが、本計画において、麦・大豆生産性向上・生産拡大に係る取組をより具体化するとともに関係者の連携を強化し、農業の更なる活性化を図っていく。

## 2. 麦・大豆生産の現状と課題

### (1) 需要に応じた生産の現状と課題

・大麦については、本地域で生産している大麦品種ファイバースノウは、種子分を除き全量が麦茶や麺の原料として、製粉企業に販売されている。

・大豆については、エンレイ、オオツル、里のほほえみといった品種の栽培が多く、直売やJAの味噌加工等に販売されている。

### (2) 生産における現状と課題

近年、転作面積の増加により大麦・大豆については栽培面積が増加傾向にある。単収が落ち込む年もあり、原因として、大雪による湿害、作付頻度の増加による地力低下等が考えられ、収量を向上させるためには、排水不良の改善、土壌診断に基づいた地力の回復、施肥や土壌改良資材の施用等の実施が課題となっている。

また、大麦は出荷のできなくなる赤かびの防除が必要であり、湿度が高いと感染しやすくなるので適期防除が非常に重要になってくる。

さらに近年は、担い手への農地の集約が進み、作業面積が拡大することにより、作業適期の逸失等が起こり、単収低下を引き起こしており、スマート農業の導入やより一層の作付の団地化等の推進が必要となっている。

### (3)実績

#### ① 生産量

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)
大麦	ファイバースノウ	617	645	682	73	233	213	450	1,503	1,453
作物計		617	645	682	73	233	213	450	1,503	1,453

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成29年産	平成30年産	令和元年産(現状)	平成29年産	平成30年産	令和元年産(現状)	平成29年産	平成30年産	令和元年産(現状)
大豆		68	69	72	92	79	95	63	55	68
作物計		68	69	72	92	79	95	63	55	68

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。

※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。（大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能）

## ② 団地化

作物名	品種名	平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大麦	ファイバースノウ	197	31.9%	242	37.5%	228	33.4%	
作物計		197	31.9%	242	37.5%	228	33.4%	

作物名	品種名	平成29年産		平成30年産		令和元年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆		18	26.5%	19	27.5%	16	22.2%	
作物計		18	26.5%	19	27.5%	16	22.2%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

※ 品種毎の記載が困難な場合は、麦全体及び大豆全体の数値のみの記載で良い。

## ③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

県の団地基準面積値を使用

※ 都道府県の団地基準面積値を使用している場合は、その旨記載すること。

※ 都道府県の団地基準面積値と異なる場合は、必ず記載すること。